

第2回 九州新幹線（西九州ルート）に係る 国土交通省とJR九州との協議結果概要

日 時 : 令和3年6月3日（木）14:00～14:30
開催方式 : WEB会議
参加者 : 国土交通省鉄道局 寺田次長、足立幹線鉄道課長
JR九州 古宮取締役専務執行役員、牛島新幹線計画部長

【主な結果概要】

与党九州新幹線（西九州ルート）検討委員会における議論を踏まえ、鉄道局からJR九州に対して、以下の内容について確認を求めた。

- 新鳥栖－武雄温泉間についてフル規格により整備する場合に、鳥栖以西の長崎本線については通勤客が多く、整備新幹線が開業しても旅客輸送量が著しく低下するものでもなく、また、フリーゲージトレインの認可においては、新鳥栖－武雄温泉間については、JR九州の在来線（並行在来線ではない）であることが前提となっていることから、新鳥栖－武雄温泉間の在来線については、鹿児島ルート of 鳥栖－八代などと同様に経営分離せず、引き続きJR九州が運行を担うべきとの意見について、どう考えるか。
- 佐賀県の地方負担軽減のため、施設の貸付期間を現行の30年から延長することについて、営業主体としてどう考えるか。
- フル規格による整備の場合の3ルート（佐賀駅を通るルート、北ルート、空港ルート）について、どう考えるか。

これに対し、JR九州からの考え方は以下のとおりであった。

- 在来線のあり方に関し、
 - ・ 在来線の利便性の問題は、地域の皆様にとって重要な課題である。
 - ・ 必ずしも経営分離を前提とせず、佐賀県等から具体的な課題認識のご意見等を拝聴しながら、真摯に議論を深めたい。
 - ・ 佐賀県と国土交通省の「幅広い協議」において、「フル規格」という選

択肢にある程度の目途がつきそうな段階になれば、議論を深めたい。

- 地方負担軽減について、当社として申し上げる立場にはないが、施設の貸付期間を現行の30年から延長することなど、地方負担軽減に資する今後の議論に期待したい。なお、この場合に大規模修繕等、新たに発生する維持管理費用等について、考慮する必要があると考える。
- ルートについて、時間短縮効果に優れ、佐賀市の中心部を通りアクセス性に優れ、お客さまにとってご利用しやすいという観点を考慮すると、当社としては現時点で佐賀駅を通るルート以外は考えられないが、今後の与党検討委員会や佐賀県におけるご議論を拝聴したい。

以 上